

図書館だより



No. 3

平成 27 年 6 月 26 日発行

去年より3日遅れで梅雨入りした関東甲信越。始まったという割にはなかなか降らず、降ったと思えばゲリラ豪雨となり、気まぐれな天候が続きますが、梅雨らしい雨の季節を楽しみたいものです。だけど、できることなら毎年なかなか晴れてくれない7月7日の七夕だけは今年こそ晴天に恵まれ、星空が見られるといいですね。

6月の図書館では図書委員主催のイベントがいくつも開催されました。おはなし会、映写会、読書会と、参加してくれたみなさんには楽しんでもらえたでしょうか。今後も色々な企画を行っていきますので、気軽に参加してください。手作りしおりのコーナーも好評だったので、また手作りアイテム制作のコーナーも設けていきたいなと思います。読書はもちろんですが、読書以外にも図書館で楽しい時間を過ごしててください。



星とラジオと優しい奇跡*

B913.6-ナ『星に願いを、月に祈りを』 中村 航 || 著 小学館

小学5年生の次郎が児童会のキャンプでホタルを見たいという麻里の願いを叶えるため、アキオと三人でテントを抜け出し、冒険した夜。アキオのラジオから雑音に紛れながら聞こえてきた不思議なラジオ番組と道に迷った3人を救ったホタル、忘れられない体験をした夜になった。

やがて彼らは中学生になり、高校生になっていく。次郎は麻里と付き合い、アキオは野球に打ち込み、1つ上の先輩に恋をする。次郎は麻里とあのキャンプ場へ再び訪れ、あの不思議なラジオに出会う。それを聞いたアキオも再び、キャンプ場へと向かう。そこで耳にしたものは…。純粋でまっすぐな物語はラジオからながれる星空放送局『星空・レディオ・ショー』とシンクロしながら進んでいく。

室内で手作りを楽しむ*

751-7『プラバンアクセサリー』 福家 聡子 || 著 文化出版局

「プラバンかあ、作ったなあ」と言いながら手に取る人がよくいるこの本。形を考えて、色を塗って、トースターで焼くと出来上がるプラバン。ペラペラのシートがトースターの中で縮んでいって、厚みが出ていくその様子を楽しみながら作っていた人もきっと多いはず。そんな懐かしい思い出のプラバンですが、ちょっと工夫を加えるだけで、お店で売っているようなかわいいアクセサリーに変身するのです。型紙つきで作り方が載っているので、安心して色々な形に挑戦できます。また型紙なしで簡単にボタンが作れるので、今ある洋服のボタンを自分の手作りにつけかえるのもおしゃれですね。

妖怪絵馬展わあくしよっぷに行こう

東京都江東区深川にある深川資料館通り商店街では怪談を通じて土地の記憶と魅力を掘り起し、商店街を活性化することを目的にさまざまな怪談イベントが実施されています。そのイベントの一環として、今年の夏行われるのが、この“妖怪絵馬展わあくしよっぷ”です。

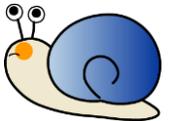
参加者は江戸時代に描かれた名前のない妖怪たちの図版をもとに、絵馬に妖怪を描きます。講師陣のレクチャー付きなので、絵を描くのに自信がなくても安心して参加できます。完成した絵馬はなんと7/26～8/30の期間、こちらの深川江戸資料館で展示されるそうです。絵馬に絵付け、しかも妖怪、というなかなかできない体験を楽しんでみませんか。

開催日 2015年7月25日(土)

開催時間 午前の部 9時～12時／午後の部 13時30分～16時30分

参加費 500円 ※材料費として(絵馬1枚+画材費用)

募集人数 午前の部／午後の部 各25名



721-タ『絵本百物語』 竹原 春泉 || 著 国書刊行会

百物語という響きから、幽霊を思い浮かべそうになりますが、この本に載っているのは妖怪です。「妖怪？百物語？なんだか怖そう…」と思われるかもしれませんが、実際に本を開いてみると小豆洗や歯黒べったりなど、名前に聞き覚えがあるもの、解説を読んでいると「あ、この話どこかで聞いたことがある」と懐かしさを感じるものなどがあり、意外とハマって読んでしまうおもしろさがあります。また、一見不気味な妖怪の画もよくよく見てみると、コミカルで味があったりと怖いだけじゃない一面を発見できます。

頑張り！なでしこジャパン

カナダで熱戦が繰り広げられているFIFA女子ワールドカップ2015。予選グループCを1位通過し、決勝リーグでも見事オランダを破り、ベスト8に勝ち進んでいます。その勇姿を見て、ファンになった人、ますますなでしこジャパンが好きになった人におすすめしたい本です。

783-ガ『蹴る女』 川崎 三行 || 著 講談社

FIFA女子ワールドカップ カナダ2015でMFとして活躍しているなでしこジャパンの阪口夢穂さん。4年前のワールドカップ(ドイツ)で優勝を果たしたなでしこジャパンの軌跡が当時も代表選手として活躍していた阪口選手にスポットを当てながら書かれています。阪口選手だけでなく、なでしこジャパンの各選手がこれまでどんなサッカー人生を送って来たのか、そこには思いや壁があったのか鮮明に伝わってきます。代表として戦うことの重みを感じ、読んだ後には、なでしこジャパンを応援する気持ちをもっと熱く強くなります。

🍅 今月の知っておきたい〇〇の世界 🍅

今月の知っておきたい〇〇の世界、第3回目の今回は“農業の世界”を紹介します。

みなさんも総合学習の中で農業体験を行い、自分たちが口にしている野菜がどんな風に植えられるのか、そして、収穫されるのかということ作業を通して知る機会を持っています。そうした体験をきっかけに農業に関心を抱いている人もいないのでしょうか。

また協議が重ねられているTPP(環太平洋戦略的経済連携協定)でも農業について様々な懸念がされていたり、食糧自給率や後継者不足など、よく耳にする問題を色々抱えています。そうした農業を取り巻く問題や農業という仕事について知ってもらいたいと思います。



TPPと日本の農業*

302-イ 『池上彰の学べるニュース7』 池上彰 他 || 著 海竜社

TPPIについてみなさんはどのくらいの知識を持っていますか。農業のみならず、多岐に渡る分野の今後に関わる重要かつ大きな問題ですが、それゆえにその中身はとても複雑です。大人でもそう感じるTPPをテレビでもおなじみのジャーナリスト 池上彰さんがわかりやすく解説してくれています。

TPPの目的、関税の役割、他の協定とTPPの違いについてなど、基本的なことからはじめ、TPP参加のメリットやデメリットについて学んでいけます。TPPの協議の中で、農業の危機がなぜこんなにも言われ続けているのかを知ることができます。みなさんも日本の農業はどうあるべきかを考えていきましょう。

農業×女子*

611-イ 『農業女子』 伊藤 淳子 || 著 洋泉社

農業の現場でも今、多くの女性が活躍しているのを知っていますか。農業女子のニーズに合わせた可愛くて使える軽トラが登場したり、化粧品メーカーがお肌のケアをバックアップする商品を提供したりと社会全体が農業に携わる女性を応援しているのです。それはただ農業女子の存在が珍しいからではなく、彼女たちが本気で農業に携わり、女子ならではの目線を生かし、様々な取り組みによって農業の世界に新しい風を起しているからなのです。苦労の絶えない仕事だなのを改めて感じると共に、みなさんとってもいい笑顔だなということ、そして綺麗に輝いていると感じます。虫が嫌い、土をいじることもない、そんな人もこの本をきっかけに農業という仕事に興味を抱くことになるかもしれません。そのくらい魅力的な農業女子たちが紹介されています。

お弁当が繋ぐ親子の絆

612-ヤ 『世界の農業と食糧問題のすべてがわかるほん』 八木 宏典 || 著 ナツメ社

世界の農業の特色や農産物需給についてと共にそれぞれが抱えている問題を知ることができます。みなさんが地理の授業の中で習ってきたことのおさらいになる部分もありますし、新たに得る知識も多くあります。また、農と食に関する取り組みについての中では、フェアトレードやフードバンクなどの聞き覚えのあるものを始め、世界が行っている取り組みを知り、自分にも参加できるものはないだろうか考えるきっかけを持つことができます。

さらに日本の食糧自給率、農薬や肥料についてなどは、農と食のどちらにも関わっていることで、私たちの身近な問題となるところなので、より注目して読んでほしいと思います。完全自給食の献立や日本人の食生活の変化にはきっと驚くはずですよ。

🕊️ 図書館司書の「今月はこの本を読みました」 🕊️

遅ればせながら2015年本屋大賞で第2位となった

西 加奈子さんの『サラバ 上・下』(913.6-ニ 小学館)を読みました。

環家の長男 歩の視点で一家の半生が描かれています。イラン→日本→エジプト→日本と移り変わる中で、次々と様々な出来事が一家に起こります。どこにでもい

る家族というには個性が強すぎる環家の中でも最初からその個性がさく裂するのが姉 貴子の存在。その影響で目立たない生き方を選ぶ歩。こんなお姉ちゃんがいいたら、そうなるよなど大いに頷ける感じです。「このふたりがどんどん変わっていくんですよ」と前情報を聞き、良くなるのか悪くなるのか、一体どう変わってしまうのだろうと、興味津々に読み進めました。次第に一見うまく生きているように見える歩の心の危うさみたいところは読んでいて、自分の心にもこういうところってきっとあるんだよなど感じて、他人事じゃなく色々と考えさせられる小説でした。 【今井】



『海街diary』 高瀬ゆのか || 著 吉田秋生 || 原作 (B913.6-タ 小学館)を読みました。

マンガから映画化され、さらにノベライズされたものです。鎌倉で暮らす3姉妹は、母と自分たちをおいて出奔した父が亡くなったことを機に異母妹の存在を知り、一緒に暮らし始めます。蝉の音が煩い季節に初めて顔を合わせ、お彼岸のおはぎが到来する頃一緒に暮らし始め、一面の紅葉、こたつ、シラス漁、満開の桜、梅の実の収穫とジュースづくり、雨にぬれる紫陽花、そして海に映える花火、美しい景色と季節の移ろい感じられる鎌倉での1年の生活をとおして、3姉妹に対して遠慮がちだった異母妹すずも、ゆっくと家族の一員になっていきます。そして蝉時雨の中、長姉の優しい抱擁と言葉に甘えるすずの願い。家族の絆ってどういうものなのか、しみじみと温もりを感じられる作品でした。 【鈴木】